

法人（事業所）理念		<ul style="list-style-type: none"> ・個々を大切に、段階に沿った支援を行います ・子ども社会や後の社会生活でいきる「自分らしさ」を支えます ・家族に寄り添い、共に子どもの成長を見守ります 		
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> ・自分を大切に、相手も大切にする子 ・自分を表現でき、相手の表現も受け入れられる子 ・人との関わりを楽しめる子 		
営業時間		11時00分から19時45分まで	送迎実施の有無	あり <u>なし</u>
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	子ども自身が通所を楽しみにし、目的意識を持って通えるように生活のリズムや学校での在り様を把握できるようにしていく。放課後の居場所となり、さまざまなストレスを発散しながら自分自身が持つエネルギーを自然に発散できるように環境に配慮する。気持ちのコントロールをしながら、それぞれの主体性を引き出し能動的に行動できるタイミングを尊重し見守りながら必要に応じてサポートする。		
	運動・感覚	広いホール（207号室）ではロッキングホースやトランポリン、三角ターゲット、フレキサースィングなどの感覚統合遊具を用いて全身運動を通して感覚が統合されよう環境設定を行う。音楽プログラムでは「聞く」「動く」「歌う」「演奏する」などの全身を使ったプログラムを常に取り入れ、他人と合わせる事の充実感と達成感を得られるように促していく。学習の中に簡単なゲームを取り入れることで、人とのコミュニケーションを含めた五感を刺激し、安心感や達成感が得られるように促す。		
	認知・行動	自由遊びではそれぞれの興味関心に沿って、さまざまな提案を行う。本人の意思に沿って自己選択、自己決定をして充実したプロセスと結果を経験ができるように促す。個別の学習タイムではそれぞれの発達段階、学習段階、認知特性等に沿った課題を提供し、試行錯誤をくりかえし自分での気付きによって果敢にチャレンジしていく力をはぐくむ。いつもと違う事柄に対しては事前に知らせる等、環境に創意工夫をする。このことで見通しや気持ちを整えることでイレギュラーな事柄に対して自力で対処していけるような柔軟性をつけられるようにする。		
	言語 コミュニケーション	自分から行動を起こせる環境を整えることで、やりたい気持ちを高め、さらに話したい、伝えたいというコミュニケーション意欲を高めていく。子供たちから発信する際に、大人が自然に反応することにより、やり取りが成り立ち、自分の気持ちや意欲が相手に伝わったという実感を積み重ねていく。音声言語に限らず、表情や視線、しぐさ、全身運動などいろいろな手段を通して自分の気持ちを相手に伝えていくことができる環境づくりを行う。		
	人間関係 社会性	子供たちを中心に、その場集うすべての人が気持ちを分かち合えるような居場所となる。大人子供を含めての信頼関係の構築を基盤に、自分の強みを生かした役割を担うことで、まわりの人々の役に立てる経験を積み重ねていく。そのことで自分の存在意義や自己肯定感が向上するように支援していく。学校や家庭以外の場所で、のびのびと自分らしく過ごせる時間を提供する。また、自分の思いを表現し、まわりの人々と穏やかな関係性を構築できる場を目指す。		
家族支援		保護者が送迎する強みを生かし、リアルタイムでの気付きを職員と保護者が共有していく。家庭や学校での困り感について、いつでも話せる環境を確保していく。自主通所の子供に関しては、段階を踏みできるようになるようプログラムを組んでいる。メール・電話等でも丁寧に家族を支援している。	移行支援	進級や進学の際には、保護者を通して丁寧な情報共有を行い、本人や家族が安心して新しい環境に進めるように支援する。
地域支援・地域連携		他事業所や学校とのやり取りにも積極的に参加し、療育的視点から提案や情報共有を行う。地域の児童館活用や、地域の活動団体を講師に招くなどを通じ、地域連携に努めている。	職員の質の向上	職員間での議論等を日々活発に行うとともに、外部の研修等で学び、専門性を高める。
主な行事等		季節や社会的なイベント等に合わせたプログラムを適宜行っていく。特に、学校が長期休みの期間には、貸し切りバスでのお出かけ（動物園、博物館、飛行場等）や、ボーリング、カラオケなどの一般遊技場にも出かけていく。保護者向けの年1回の同窓会や、1学期に1回程度の茶話会を開催する。		